

## 技術評価報告書

申込者： JFE 条鋼株式会社 代表取締役社長 野村 寛  
東京都港区新橋五丁目 11 番 3 号

技術名称： J フープ 785 設計施工指針

当法人「建築構造技術審議委員会」において慎重審議の結果、2015年9月25日付けの技術評価書(SABTEC 評価 15-01)の通り、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、本技術は妥当なものであると判断されたことを報告する。

2015年9月25日

一般社団法人  
建築構造技術支援機構  
代表理事 益尾 潔

### 建築構造技術審議委員会

委員長	窪田敏行	近畿大学	名誉教授
委員	岸本一蔵	近畿大学建築学部建築学科	教授
〃	菅野俊介	広島大学	名誉教授
〃	田才 晃	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院	教授
〃	丸田 誠	島根大学大学院総合理工学研究科	教授
〃	三谷 勲	神戸大学	名誉教授

### J フープ 785 設計施工指針 専門部会

主査	岸本一蔵	近畿大学建築学部建築学科	教授
委員	窪田敏行	近畿大学	名誉教授



## 技術評価書

申込者：JFE条鋼株式会社 代表取締役社長 野村 寛  
東京都港区新橋五丁目 11 番 3 号

技術名称： Jフープ 785 設計施工指針

技術概要： Jフープ 785 は、JFE 条鋼(株)水島製造所が製造する大臣認定(認定番号 MSRB-0096：平成 27 年 8 月 10 日)取得のせん断補強筋用高強度鉄筋棒鋼 JH785 を用いた鉄筋コンクリート造柱、梁の 785N/mm<sup>2</sup> 級高強度せん断補強筋であり、溶接閉鎖型、フック形式およびキャップタイ形式として用いることができる。  
Jフープ 785 設計施工指針では、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 2010」に準拠した許容応力度設計、ならびに荒川 mean 式または修正塑性式による終局強度設計を行うことを基本としている。

本委員会は、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、下記の通り、本技術は妥当なものであると判断した。

2015 年 9 月 25 日

一般社団法人  
建築構造技術支援機構  
建築構造技術審議委員会  
委員長 窪田 敏行

### 記

- 評価方法： 申込者提出の下記資料によって、技術評価を行った。  
Jフープ 785 設計施工指針、説明資料および関連資料  
これらの資料には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した技術資料がまとめられている。
- 評価内容： Jフープ 785 を用いた鉄筋コンクリート造柱、梁は、長期荷重時に使用上支障を来たすひび割れおよび短期荷重時に修復性を損なうひび割れを起こさず、Jフープ 785 設計施工指針に定められたせん断終局耐力を有すると判断される。

## 技術評価内容

### 申込者

J F E 条鋼株式会社  
代表取締役社長 野村 寛  
東京都港区新橋五丁目 11 番 3 号

### 技術名称

J フープ 785 設計施工指針

### 適用範囲

- (1) 適用部位 鉄筋コンクリート造柱、梁
- (2) 材 料

せん断補強筋 呼 称 : J フープ 785

種 類 : JH785

(大臣認定番号 MSRB-0096、平成 27 年 8 月 10 日)

呼び名 : D10, D13, D16

コンクリート 種 類 : 普通コンクリート

設計基準強度 : 21 N/mm<sup>2</sup> 以上、60 N/mm<sup>2</sup> 以下

### 技術評価に際して行われた実験等の概要

J フープ 785 開発時には、RC 柱(5 体)および RC 梁(10 体)の実験を行い、RC 柱の実験では主として高軸力下の終局耐力および変形性能、RC 梁の実験では損傷短期許容せん断力、終局耐力および変形性能を確認し、J フープ 785 設計施工指針の作成時には、本開発実験および既往実験と照らし合せて設計方法の妥当性を確認している。

検討対象の既往実験は、1980 年代～1990 年代の高炉・高強度せん断補強筋および 2000 年代～2010 年代の電炉・高強度せん断補強筋の実験としている。また、電炉・高強度せん断補強筋の場合、J フープ 785 と同様、節の形状寸法は、JIS G 3112 の規格による節の形状寸法に近いことを確認するとともに、本開発実験および既往実験による RC 梁の損傷短期許容せん断力時せん断ひび割れ幅の統計値について検討が行われている。

### 技術評価の主な審議事項

技術評価に際し、建築構造技術審議委員会での主な審議事項は、以下の通りである。

- 1) J フープ 785 を用いた梁、柱の損傷短期許容せん断力の妥当性
- 2) J フープ 785 を用いた梁、柱のせん断終局耐力および曲げ降伏後の変形性能の妥当性

## 技術評価の経過

2015年7月31日開催の第20回建築構造技術審議委員会(以下、本委員会と略記する)において、申込者提出の技術資料について検討し、詳細検討は、専門部会を設けて行うこととした。専門部会では、本委員会での指摘事項を踏まえて修正された技術資料について、慎重に審議を行い、結果を2015年9月25日開催の第21回建築構造技術審議委員会に報告した。

建築構造技術審議委員会では、申込者提出の技術資料について慎重に審議を行い、本技術は妥当なものであると判断した。

以上